

SDS チーフマネージャー養成講座 報告書

2024年3月14日

報告者：山口大学医学部 SDS 支援システム開発講座

開催日時：2024年3月14日(木) 10時00分～16時10分

開催場所：宇部市総合福祉会館 2階ボランティア交流ホール大

参加定員：30名程度

参加対象者：相談支援専門員、なんでも相談員、地域包括支援センター職員、行政専門職員等のうち SDS ゲートキーパー養成講座を受講済みの方またはひきこもり支援の実践経験がある方

参加申し込み方法：別紙申込書にて、FAX またはメール

開催形式：会場参加のみ

主催：山口大学、宇部市

参加人数：26名

概略：

ひきこもり当事者とその家族に関わる支援者のスキルアップと生きづらさを抱えた人とその家族の苦悩を理解し、適切な支援が開始できる「SDS マネージャー」の養成を目的とし、山口大学医学部、SDS 支援システム開発講座の山根俊恵教授の講演等を踏まえながら、適切な支援体制の確立に向けて教育が行われた。

内容：

ひきこもり支援の第一人者である山口大学医学部 SDS 支援システム開発講座 山根俊恵教授により、「SDS チーフマネージャーの役割について」の講義があった。また訪問看護ステーションいしずえ代表、山口大学大学院医学系研究科 非常勤講師の田邊友也講師による「ひきこもりと TIC (トラウマ・インフォームドケア)」の講義があった。午後からパネルディスカッション形式による、ひきこもり当事者を交え「当事者の思いを聞いて支援のあり方を考えよう」講義と質疑応答があった。その後「ひきこもり支援のあり方について」グループワークを行い、発表と講評、まとめがあった。

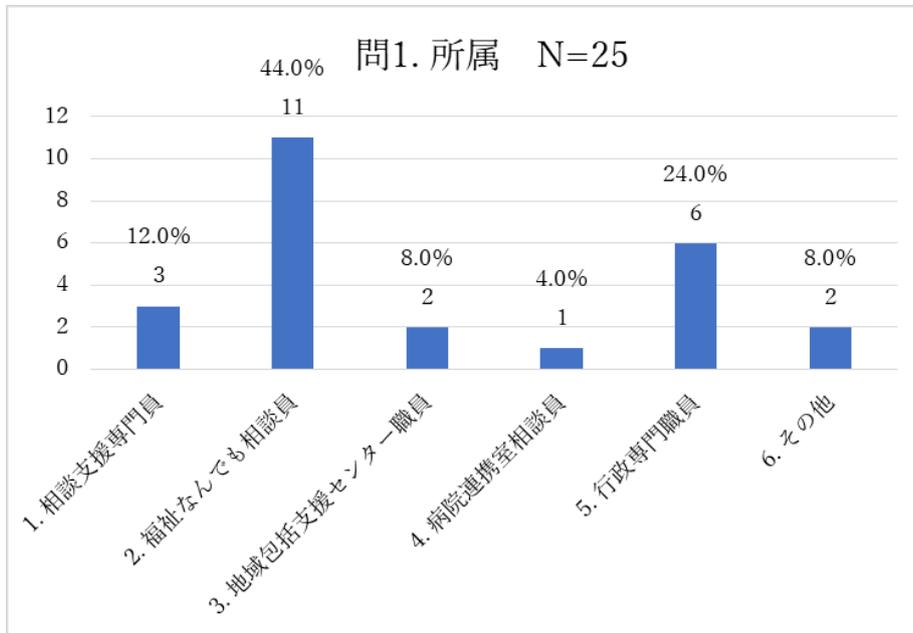
以下、終了後のアンケート結果 (p2～7) を添付する。

SDS ゲートキーパー養成講座アンケート集計結果

回収状況

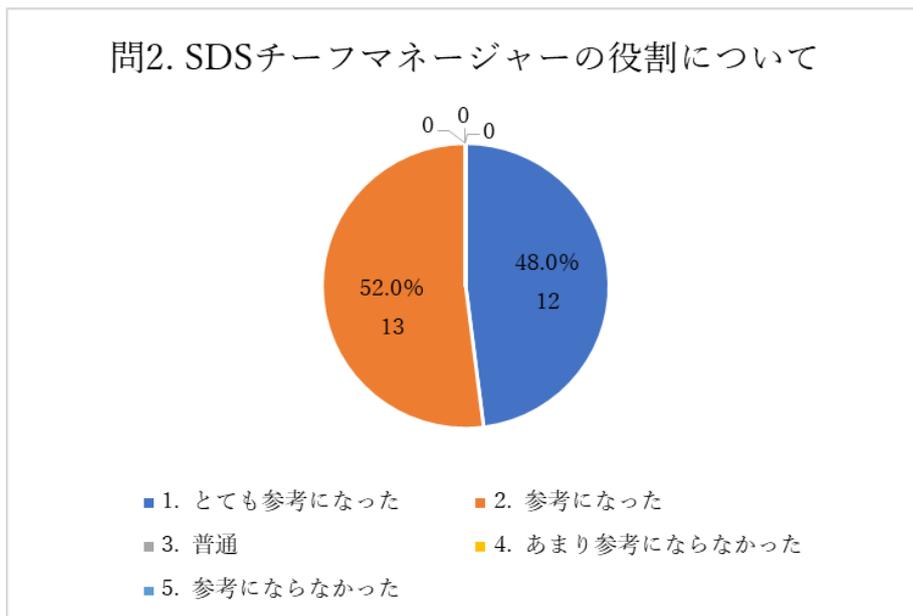
参加者 26 名にアンケート用紙を配布し、25 枚の回答を回収した（回収率 96%）

問 1. あなたの所属



所属は「福祉なんでも相談員」が 11 名、「行政専門職員」が 6 名、「相談支援専門員」が 3 名だった。その他は「生活相談サポートセンター宇部」と「生活支援員」だった。

問 2. 講義 「SDS チーフマネージャーの役割について」

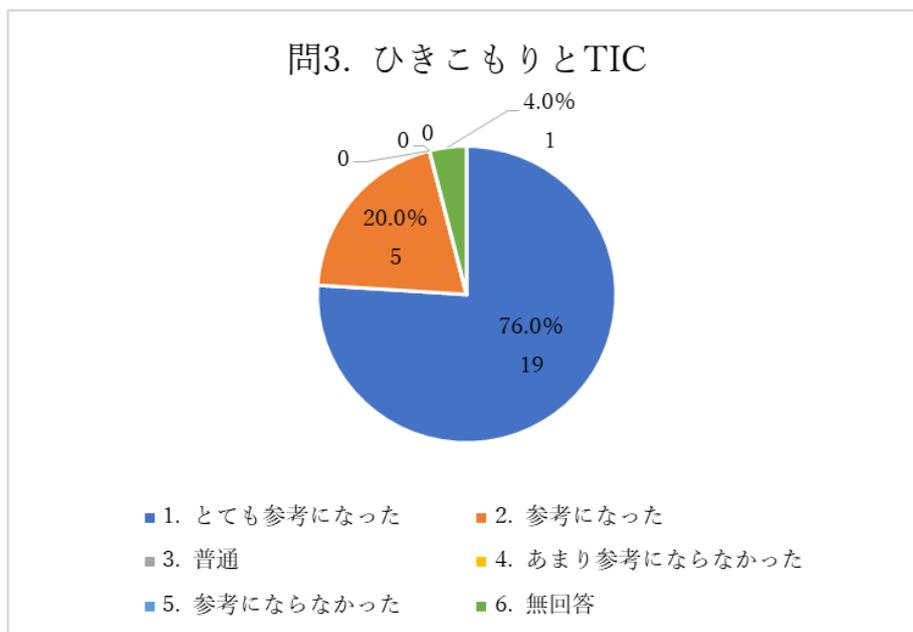


「とても参考になった」が 12 名（48.0%）、「参考になった」が 13 名（52%）との結果であった。

※よろしければ、参考になった内容を具体的にお聞かせください。

先回り、過干渉、共依存、先送りは支援者のとらえ方(伝え方)の勉強が必要と思う。
ひきつづき、お世話になります。よい支援につながるように精進したいです。
当事者の心の声に耳を傾けるということ、寄り添うということが大事。頭ではわかっているつもりでも、つい簡単な支援をしてしまうのもう一度立ち返ってより添えるようになりたいです。
SDS 当事者の思いによりそい、どのようにアセスメントしていくか、支援者のかかわる姿勢について。
「当事者の世界を想像する」苦しい思いに寄り添う。イメージをふくらませたい。
「わんこそば理論」が具体的で分かりやすかった。
家族支援をすることが本人支援につながっていくことを学びました。
本人、家族アセスメントの大切さ、何が原因か背景を知ることの大切さ。
問題だけではなく、小さい頃からどうだったのか、本人、家族のアセスメントをすること。
各事例の過程や現在も聞けたので参考になりました。
P.6 で触れられた事例について。
まずは当事者や家族の思いを理解して、しっかりとアセスメントをし、支援につなげていきたい。
事例を説明されながらの講義なのでとてもわかりやすかったです。
ひきこもり支援について。TICを知ることは、自身の知識につなげていきたい。
事例が多く、その際にどういった対応をとったのか、またその当事者が今現在どうなっているのか教えてもらえたことが良かったです。事例の紹介があっても具体的にどういう支援を行い、どう改善したかということが語られない講義が多いので貴重だと感じました。

問3. 講義 「ひきこもりとTIC(トラウマ・インフォームドケア)」

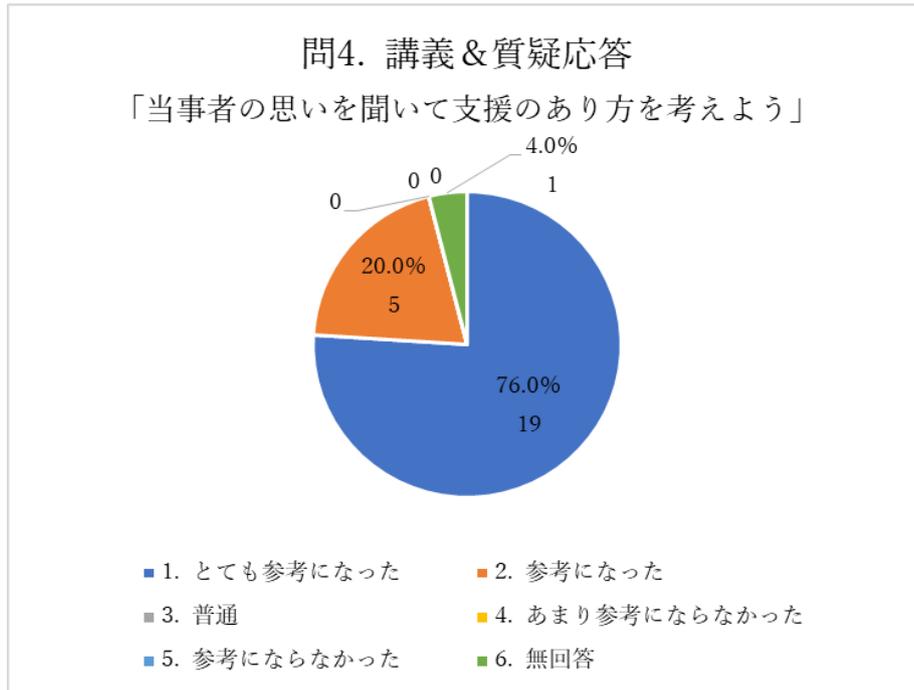


「とても参考になった」が19名(76.0%)、「参考になった」が5名(20.0%)であった。

※よろしければ、参考になった内容を具体的にお聞かせください。

否定はしないということを知ってはいても、つい正論を言ってしまいます。
暴言、暴力には必ず理由があるということ、その背景を理解する必要が理解できた。相手と言う事を否定しない対応を具体的に学べたことが良かったです。
本買ってもっと勉強します。
背景を理解することの大切さについて再認識した。
当事者に対して否定しないこと大事だと思います。自分は介護職としての仕事が長かったので、介護職としても否定をしないような声かけを心がけるようにしていました。
とても興味深く聞くことができました。またお話をききたいです。
TICについては学んだことがなかったが、条件づけの仕組みはよく聞く内容でした。それを支援に活かせる理論に落としこまれていたので、これを実際に活用できるようにしていきたいと思いました。
TICの考え方について
繋がっていることが第一というのはとても実感があり、傾聴していくことの大切さもあらためてお聞きし大切に思いました。
背景をよく見て、否定的なことば遣いにならず支援していくこと。
内容が盛りだくさんで、もっとゆっくりお話を聞く機会があれば幸いです。
TICについてのお話を初めてききました。nonTICにならないように気をつけて支援にあたらないと学びました。
TICについて、とても勉強になった。中立的・批判的でない声かけの難しさを感じた。
恐怖条件づけ、学びになった。
TICについてとてもわかりやすく、具体的なイメージを持つことができました。恐怖条件づけの話がわかりやすかった。
パブロフの条件反射がすごく勉強になった。子どもを育てる時に聞いておけばよかったと思う。
険悪刺激、TICとても興味深かったです。面白く話していただき、分かりやすかったです。紐づくことが多いです。最新のグラフィック作図がほしいです。
トラウマに着目すること。
TICのことが理解できた。

問4. 講義&質疑応答 「当事者の思いを聞いて支援のあり方を考えよう」



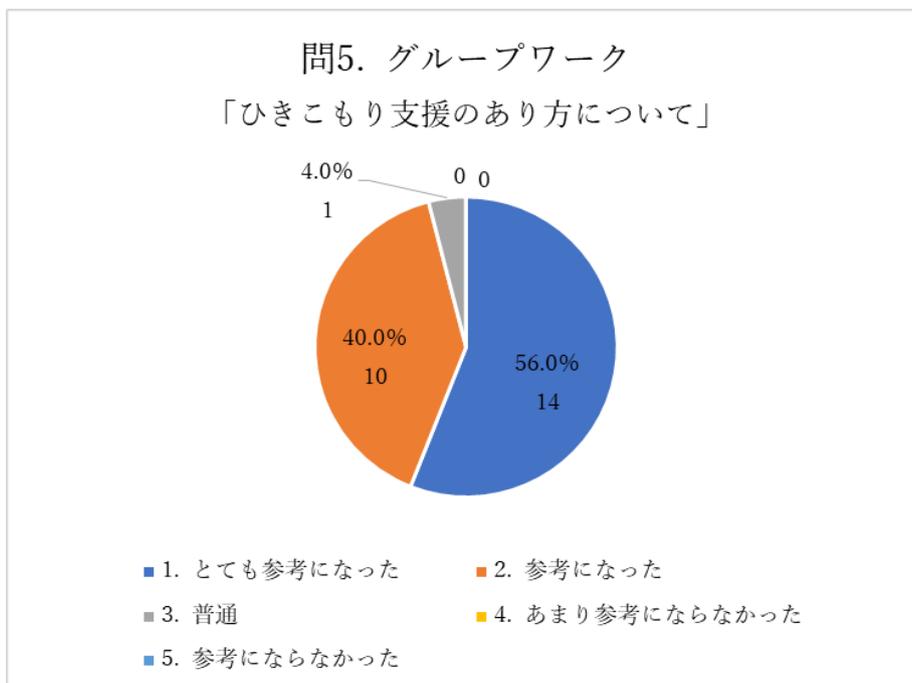
「とても参考になった」が19名（76.0%）、「参考になった」が5名（20.0%）であった。

※よろしければ、参考になった内容を具体的にお聞かせください。

当事者の方の話を直接聞いたのは初めてで、ひきこもりになったきっかけや部屋から出られるようになった過程など、とても参考になりました。ありがとうございました。
すべて生の気持ちをはじめて聞いた。
藤井さんの心の動きや実体験について伺えて参考になりました。できれば今の心境や生活の様子なども聞けたら良かったのかなとも思います。
トライして、その経験をふりかえる洞察する力を見習いたいです。ありがとうございました。
本人は親に話を聞いてほしかったという言葉にやっぱりなと思った。親は聞くことしかできないかもしれないが、聞くだけでもいいんだ、吐き出せてあげられればいいんだと改めて思った。支援者として親ではないけれど、聞くだけでも気持ちが落ち着いてもらえるのなら黙って聞いてみようと思う。
藤井さんの話を自身の不登校体験と重ねて、思い返すところがあった。家族環境のアセスメントの話がとても興味深かった。
一生懸命話をしていただいてよかったです。
藤井さんの話はとても分かりやすかった。貴重な経験を話していただき勉強になった。
どのような思いを抱えて過ごされて来たのかを知ることができ、寄り添った支援をしていきたいと感じました。

<p>転機となったきっかけ作り(両親とのコミュニケーションをとること、スキューバダイビングの話)はとても参考になりました。</p>
<p>ひきこもりから立ち直った経験を人前で話すことは勇気あることだけれど、この経験は人生の中で無駄ではないと思うので、今生きづらさを感じている人とかかわり、その人達を良い方向に導いてほしい。</p>
<p>なかなか本人から聞ける機会がないので、実際の思いのこもった話が聞けて良かった。</p>
<p>どんな思いでひきこもりの体験をされたか、実体験が大変参考になりました。</p>
<p>家族への思いを聞けたのが良かった。自分で気づいて親との関係性を再構築しようとしたのはすごいなと感じました。</p>
<p>ただ話を聞いてほしい、親子関係が心に残りました。</p>
<p>なかなか聞けるような話ではなかったので、ありがとうございました。</p>
<p>当事者の苦しさを知ること、自信の支援を振り返ることができた。</p>
<p>とても勉強になりました。</p>
<p>藤井さんのお話を聞くことができとても良かった。実際に相談の担当の方には、ひきこもりの方がおられないのでとても勉強になった。人と人との関係は関わる仕事をしている中で、当事者のみだけでなく家族との関わりがとても大切になってくると感じた。</p>
<p>当事者が登壇して下さることは中々ないので大変ありがたかったです。</p>

問5. グループワーク「ひきこもり支援のあり方について」



「とても参考になった」が14名(56.0%)、「参考になった」が10名(40.0%)、「普通」が1名(4.0%)であった。

※よろしければ、参考になった内容を具体的にお聞かせください。

伴走し続けること、中立な立場で関わること、難しく大切ですね。
グループで発言したり、他の参加者の発言により改めて支援のあり方を考えさせられた。また講評が大変勉強になりました。
グループの皆さんの意見が聞けて大変良かった。
色々な事例を聞けて勉強になりました。
関係機関の方と意見交換でき、日常業務の関係づくりにもつながる場にもなった。
問題解決をしなければならぬと思いやすいので、戦略的に待てるようになりたいと思いました。
自分自身の実践を見つめなおすきっかけになりました。
大事なことが聞けました。ありがとうございました。
色々な考えがあり、支援のあり方を考えさせられた。
ひきこもりの事例に関わったことをグループ内で共有できた。
他機関でどのようなケースに対応しているのかを知る機会となりました。
結論は求めている→当事者は話を聞いてほしい。じっと待ってほしい。隣で座っていてくれるだけでいい。
支援者の姿勢。先回りしてしまう自分に気づいた(どうしてもパターンリズムになってしまっている)
ひきこもりの支援について、実際の事例等もおしてグループで考えることができた。さいごの藤井さんのコメントが心にひびいた。
つながり続けること(あせらない)先回りしないこと。本人、家族が主体ということを忘れないこと。
自分の直近の相談について、はじめの取りかかりを話してもらった。
あらためて自分の考えのくせに気がつきました。